

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年8月25日～2014年8月31日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年9月5日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼「大統領選挙」後の動き

・25日、ラスムセン NATO 事務局長は、NATO は「大統領選挙」を承認しないとの声明を発表。米国、ウクライナ、アゼルバイジャン、ルーマニアなども同様の声明を発表した。

・27日、「大統領選挙」で勝利したハジンバ氏とプーチン露大統領の会談がモスクワで行なわれた。露・アブハジア間の友好、協力及び相互援助に関する新しい「条約」について議論。ロシアによるアブハジアへの財政支援の拡大についても協議。

・「ハ」氏は、露メディアに対し、アブハジアの安全保障をより確かなものにするべく、ロシアとの協力に関する包括的な新たな条約を今年末までに準備すると述べた。

【南オセチア】

▼行政境界線の通過の禁止(25日-26日)

・26日にロシア連邦による「南オセチア共和国」の承認から6周年を祝う行事が催されることに関連し、「当局」は25日朝から行政境界線の通過点を閉鎖。

2. 外 政

▼パンジキゼ外相がオーストリアを訪問(24日-25日)

・アシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表、フィッシャー・オーストリア連邦大統領、ザニエル OSCE 事務局長らと共にアルプハッハ欧州政治フォーラムに参加。

▼マルグヴェラシヴィリ大統領とバセスク・ルーマニア大統領の電話会談(26日)

・両大統領は NATO 首脳会議でグルジアの前進が評価され、主要な文書に適切に反映されることに対する期待を表明。ウクライナ情勢、地域的な安全保障について議論。

▼査証規則の変更(26日)

・グルジア外務省は、9月1日より、これまで無査証での入国が可能であったイラク、ボリビア、チリ、キューバ、グアテマラ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ドミニカ共和国、トリニダード・トバゴ、セントクリストファー・ネイビス、スリナム、セントルシアの13カ国の国民に対して査証の取得を義務付けることを発表。

・また、これまで無査証で360日間の滞在が可能であったその他94カ国・地域の国民は、9月1日以降、無査証の場合、180日間に最大90日までしか滞在できなくなる。

・パンジキゼ外相は、新しい査証規則は EU との査証自由化行動計画に沿ったものであるとコメント。

▼アラサニア国防相が中央アフリカ共和国を訪問(27日)

・EU のミッション EUFOR RCA に参加し、首都バンギの治安維持を担当している約140名のグルジア軍兵士に対し、「ア」国防相は、「諸君のおかげで今や NATO のみならず EU もグルジア軍を高く評価している。諸君らの活動を我々は誇りに思う」と演説した。

・「ア」国防相は中央アフリカ共和国の国防相と会談。

▼セルゲエンコ労働・保健・社会保障大臣がウクライナを訪問(27日-30日)

・ウクライナ東部の状況を受け、いかなる人道支援が適切であるかをウクライナの保健大臣らと協議。必要な医薬品を直ちに提供し、情報交換のための連絡グループを設置することで合意。

▼ガリバシヴィリ首相がエルドアン・トルコ大統領の就任式に出席(28日)

▼ウクライナ情勢に関する要人の発言(28日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、ウクライナの状況に関し重大な憂慮を表明し、「国際社会に対し、欧州における新たな戦争を抑止するための努力の結集を呼びかける」とのコメントを発表。

・ガリバシヴィリ首相も、「ウクライナの状況を極めて憂慮している。我々は事態を注視している」として、平和と安定を取り戻すために、国際社会は更に努力せねばならないと発言。

・ウスパシヴィリ国会議長は、「露からのウクライナに対する目に余る侵略を絶対的に受入れ難いものとして非難しなければならぬ」と発言。

▼パンジキゼ外相がルーマニアを訪問(28日)

・アシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表、コルラツェアン・ルーマニア外相、ゲルマン・モルドバ外相らとともにブカレストで開催されたルーマニア外交に関する年次会議に参加。グルジアおよび「東方パートナーシップ」地域が直面する課題について演説を行なった。

・会議後に行なわれたルーマニアおよびモルドバの外相との共同記者会見で、「ウクライナへの軍事侵攻、クリミアの併合を非難し、ウクライナ国民への連帯を今一度表明する」と述べた。

・「コ」ルーマニア外相と会談し、経済・エネルギー・輸送分野のプロジェクトを含む二国間協力、ウクライナ情勢などについて議論。バトゥミ、ポティとルーマニアのコンスタンタを結ぶフェリーの復活の意義が強調された。

▼アラサニア国防相がフランスを訪問(29日)

- ・「ア」国防相はルドリアン仏国防相と会談。カパナゼ参謀総長およびアヴァリアニ国防次官も同席した。
- ・両国防相は軍事分野における二国間協力の発展の見通しについて議論。ウェールズで行なわれる NATO 首脳会議の重要性も強調された。「ル」仏国防相はグルジアの NATO 加盟の方針に対するフランスの支持を改めて確認した。「ル」仏国防相は中央アフリカ共和国での EU の平和維持活動へのグルジアの参加について感謝を述べた。地域的な安全保障に関する問題にも言及。

3. 内政

▼米民主国際研究所による世論調査(25日、27日)

- ・米民主国際研究所 (NDI) が、7月から8月にかけてグルジア全国の 3,338 人を対象に行なった世論調査の結果を発表。前回は2014年4月に行なわれた。
- ・40%の回答者が「グルジアが良い方向に向かっている」と考えている(前回は36%)。前回と変わらず46%が「現在のグルジアは民主主義的である」と回答。
- ・最も重要な国内問題として挙げられたのは雇用、貧困、領土一体性、年金、保険・医療など。
- ・69%が EU との連合協定への署名を支持。反対は8%。
- ・EU および NATO 加盟に対する支持はそれぞれ 78%、72% (ともに前回と変わらず)。グルジアが「ユーラシア同盟」に加入すべきだと答えた回答者は20% (前回16%)。
- ・42%がロシアを「現実的な脅威である」と考えている(前回50%)。対露関係の現状に満足17%、不満73%。
- ・主要な政治家について「好き」か「嫌い」かを尋ねた結果、「好き」の割合が高いのはアラサニア国防相60% (前回67%)、ガリバシヴィリ首相54% (前回64%)、ウスパシヴィリ国会議長51% (前回61%)、マルグヴェラシヴィリ大統領48% (前回46%)、イヴァニシヴィリ前首相45% (前回51%) など。野党関係者で「好き」の割合が最も高いのはバクラゼ院内総務48% (前回51%)。サーカシヴィリ前大統領を「好き」と答えたのは前回とほぼ変わらず22%。
- ・50%が依然として「イ」前首相が政府の行動を決定していると考えている。
- ・自らの立場に最も近い政党として42%が与党連合「グルジアの夢」を、11%が野党「統一国民運動」を挙げた。

▼サーカシヴィリ前大統領に対する国際手配に向けた準備(31日)

- ・検察は、既に国内で手配されているサーカシヴィリ前大統領に対する国際的な手配を発動する準備を進めてい

るとのコメントを発表。

4. 経済

▼ロシアへのグルジアの農産物の輸出品目の拡大(21日)

- ・21日にモスクワで行なわれたグルジア国家食料局局長と露連邦動植物検疫管理局局長との会談で、グルジア産の仔羊肉、魚、蜂蜜のロシアへの輸出が10月14日から解禁されることが決定された。

▼ムーディーズ社がグルジアの格付けを引き上げ(25日)

- ・ムーディーズ社はグルジアの格付け見通しを「安定的」から「ポジティブ」に変更。主な理由として EU との DCFTA が9月から暫定的に発効することを挙げている。
- ・格付けの引き上げについて、26日、クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣は、政府債だけではなく、民間セクターの国際金融市場からの融資のためにも非常に重要であるとコメント。

▼2014年1月～7月の貿易収支(25日)

- ・国家統計局が発表。貿易額6,480百万ドル(前年同期比14%増)、輸出額1,665百万ドル(同13%増)、輸入額4,815百万ドル(同15%増)。貿易収支は3,150百万ドルの入超。
- ・貿易相手国の内訳は CIS 諸国31%、EU 諸国26%、その他43%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、中国、ロシア、ウクライナ、アルメニア、米国、ドイツ、ブルガリア、日本。日本は第7位の輸入相手国(輸入額198百万ドル)。

▼電力の消費・輸出入量(26日)

- ・電力システム・コマーシャル・オペレーター (ESCO) によれば、2014年1月～7月の国内の(送電ロス1億3310万KWhを除いた)電力消費量は63億130万KWhで、前年同期比7%増。
- ・輸入量2億8770KWh、輸出量4億7840KWh。

▼2014年7月の経済成長(29日)

- ・国家統計局が発表。2014年7月の実質GDPの成長率(推定値)は前年同月比+7.2%。

3. その他

▼ロシアとの国境通過点の通行が一部再開される(30日)

- ・ダリアリ峡谷で8月20日に起きた大規模な地滑りにより閉鎖されていたロシアとの国境通過点の通行が、30日午後一部再開された。当面は7時から18時の間のみ通過可能。